

九手連広報紙

はっけん

2010. 7月号

◀ 掲載内容 ▶

- ◇第 36 回九州手話サークル連絡協議会評議員会
- ◇幹部会議
- ◇第 18 回九州手話サークル連絡協議会研修会

＜評議員会＞

報告者：熊本県 森 保夫

6月26日（土）、大分市（大分県総合社会福祉会館）において本会の評議員会が開催され、宮崎県が口蹄疫被害の影響で残念ながら全員が欠席（委任状提出）という異常事態でしたが、各県の評議員24名の出席を得ました。

議長には熊本県の中村評議員が選出され議事を進めました。出席者からはいくつかの質問がありましたが、21年度事業及び決算報告、22年度事業計画及び予算案の議案は原案どおり承認されました。特に沖縄県手連設立に向けた取り組みと現状については、なかなか局面は難しいものの九州三団体で共同して取り組んでいくことの理解が得られたことを受け、今年度、沖縄県聴障協と沖通研と連携して、引き続き取り組むとともに、時機を見て沖縄に出向いていくことが確認されました。また、今年度の新たな取り組みとして、各県手連の活動や研修会を訪問し、意見交換やアドバイスをを行い、相互の向上を図ることを確認しました。

ただ、九手連基金規程（案）については、各県から目的があいまい等の修正意見があり、一部文言訂正のうえ承認されました。まだ十分審議され尽くしていない部分もあるので、今後、理事会にて1年かけてより分かりやすい規程に修正することとなりました。

また、各県から選出された22年度の新役員についても承認され、副会長の担当県の交代は

ありますが、各県の理事はそのまま留任し、会長には大分の中元教博氏が引き続き選出されました。

最後に、前日（6月25日）、急遽、九州三団体会議が開催された（九手連は理事会と同日程のため欠席）旨の報告があり、来年度の全九州大会（北九州市）の開設講座について、全国ろうあ者大会（佐賀県）や全通研大会（大分県）が開催されることもあり、九プロの講座が二つから一つになることが報告された。また、長崎大会（佐世保）について、県からの補助金がカットされ、コンベンション協会からの補助金のためにも、第一次締切（7月5日）までの申し込みに協力をお願いしたい旨の依頼がありました。

＜22年度新役員＞

会 長	中元 教博（大分）
副 会 長	谷脇 章子（長崎） 祐下 明（福岡）
理 事	祐下 明（福岡） 辻田 亜紀（佐賀） 谷脇 章子（長崎） 森 保夫（熊本） 出森 俊郎（鹿児島） 齊藤 勝子（宮崎） 神田みどり（大分）
監 査	（長崎） （鹿児島）
事務局長	前淵 洋一（熊本）
顧 問	村本 宗和（熊本）

「静から動へ 活動の転換期」

九州手話サークル連絡協議会
会長 中元 教博

平成 22 年度のスタートに当たり、活動の一端を申し上げご理解とご協力を賜りたいと思います。

私達は過去 2 年間に渡りサークルの問題や課題は何かを、アンケート方式で皆さんに問いかけ今後の役割等について現状分析すると共に議論・検討を行ってきました。

2 年前の福岡研修会では早瀬久美さんを交えてろう協青年部の皆さんとの討論会、昨年の佐賀研修会では全日本ろうあ連盟青年部前事務局長の山本氏を招いて若手ろう者の考え方や生活労働環境等を学習しました。

今年の大分研修会では一転して自分達の役割は何か、どうあるべきかを再認識する意味で、大分大学の山岸教授に「サークル構成員の役割」と題してご講演を頂きました。

今後は九手連 30 年代の中期として、静から動への転換期と考えます。これからは蓄えてきたエネルギーや知恵を、フルに発揮して行動を起こすときと思います。取り分け傘下手話サークルの資質向上と強化を目指し、新たに訪問研修の実施や沖縄県手連設立に向け九州三団体と協力した支援活動を行っていくことにしました。

私達は、今後も手話を介して聴覚障害者との交流を深め聴覚障害者の生活と権利を守る支援活動を行う手話サークルの一員として、更に前進して行きたいと考えております。

何とぞ、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

＜幹部会議＞

報告者：福岡県 祐下 明

評議員会の前に幹部会議がおこなわれ、宮崎と佐賀を除く各県から 22 名の参加を得ました。今回は参加者を 4 つのグループに分けて、それぞれで異なるテーマで話し合ってもらいました。テーマは①例会（学習会）のあり方、②会員拡大、③手話サークルの役割、④役員のあり方の 4 つです。

約 2 時間の話し合いの後に各グループからそれぞれ発表してもらいました。

地域によって違いもあれば、似たような取り組みもあるなど、今後の活動に参考になる点もあつてのではないのでしょうか？

なお、各グループからの発表内容については、ホームページへの掲載も含めて今後何らかの形で公表の予定です。



グループに分かれて話し合う参加者

＜第 18 回九手連研修会＞

「大分県の歴史探訪」

講師 仲道 嘉樹

報告者：大分県 宮崎 早苗

学生の時から歴史は苦手でしたが、今回の講演で一番おもしろいと思ったのは大友宗麟の話でした。皆が知っているキリシタン大名の良い人とは違い、実はキリスト教王国を作ろうとして、神社、仏閣を壊すなど、悪いこともしていたとか、学校では教えてもらえない意外な一面を知ることができました。

また、大河ドラマに出てくる有名な武将と大分県のつながり等興味深い話ばかりで、とても良かったと思います。



ユーモアも交えて語る仲道氏

「ボランティアの基本に立って」

講師 山岸 治男

報告者：長崎県 小濱 規男

平成 22 年 6 月 27 日、大分市で開かれた九手連研修会で、大分大学教育福祉科学部教授の山

岸治男先生の講演で、ボランティアの基本に立ち返って講座を受講することになりました。副題が「サークル構成員の役割」でした。

しょっぱなからハーモニカ演奏を始められ、あっけにとられました。先生のご自身の体験をもとにした活動現場でのわかりやすいお話に、ぐんぐん惹きつけられていきました。休憩なしの1時間45分が短く感じました。

まずお話しされたのは、ボランティアの活動は、職務として行うものではないからこそ、柔軟で自由な発想に立つて行うことができ、それが、さまざまなニーズの発生する社会に貢献することにつながる、法令や職務の枠組みでは解決できないニーズにこそ、ボランティアの活動が求められているということでした。



ご自身のPTA活動や署名活動で様々な人と取り組んだ中で、最初は小さなことからスタートし、最後には、たくさんの方が自分のできることを実行して成功に結びついたというお話を聞いて、目頭を熱くする人もいたようでした。

様々な人が自分の役割を見つけて取り組んでいくという具体的なお話は、最後の結びで生かされました。ボランティア活動におけるリーダーと構成員の役割として次のようにまとめられました。

リーダーに……色々な人を受容する「包容力」、色々な場面に「臨機応変」に対応する力量、色々な視点から人や活動をプラス評価する「鷹揚さ」等が求められる。

構成員に……リーダーとの約束を守る「真面目さ」、集団との間の「社会関係」、構成員間の

「人間関係」を尊重すること、実践に当たっては「手を抜かない」態度を貫くこと等が求められる。

最後は、「愛燦々」の歌を披露され、また、あっけにとられたのでした。

一風変わった取り掛かりと仕上げで驚かされましたが、講演の中身は、ボランティア活動の原点を鋭くえぐっていただいたおかげで、今後の活動の道しるべになるものでした。

研修会を支えてくださったスタッフの皆さん、ありがとうございました。



自らの体験談も交えて語る山岸氏

編集後記

昨年の編集後記でもゲリラ豪雨の話が出ていましたが、今年もテレビをつけると連日、ゲリラ豪雨の話題でした。今年の暑さは、例年にないもののように、熱中症にならないように、水分補給に心がけています。皆さんも体調にはお気をつけください。

さて、パソコンとソフトが古いため、データの編集(?)が思うようにいかず、ヘルプを片手に時間だけが過ぎて行きました。次回は、もう少し手際よく行いたいと思います。

九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒866-0892

熊本県八代市古閑下町1717-43

前渕 洋一 TEL0965-35-2653

発行責任者：中元 教博

広報担当者：神田 みどり (大分)

発行年月日：平成22年7月31日